



研究

「千葉セクション」国際標準模式地候補に選出
理学部・岡田誠教授ら記者会見で安堵表明



地質時代の前期～中期更新世境界の国際標準模式地(GSSP)の候補を選ぶ国際地質科学連合の作業部会において、理学部の岡田誠教授を代表とする研究チームが提案した千葉県市原市の地層「千葉セクション」が選出されました。今後の審査で、千葉セクションがGSSPとなった場合には、現在「中期更新世」と呼ばれている約77万年前(地磁気が最後に逆転したとされる時期)～約12万6000年前の時代の名称が「チバニアン(「千葉の時代」の意味)」と

なり、地質時代に初めて日本の地名が使われることになりました。岡田教授は、11月14日に文部科学省で記者会見に臨み、「まずはほっとしている。しかし、就職面接でいえば、次の課長面接に進む一人が決まったという段階。これから課長面接、部長面接、社長面接と続く。作業部会で選ばれたあとに無効になった例も過去にはある。引き続き『千葉時代』の決定へ向けてベストを尽くしたい」と語りました。

地域

「茨城県 学生ビジネスプランコンテスト2017」
大学生・高校生のアイデアに会場沸く

茨城県と茨城大学の主催による「茨城県 学生ビジネスプランコンテスト2017」が、11月23日、水戸キャンパスで初めて行われました。コンテストには県内外の中学生、高校生、大学生、大学院生から、30のプランがエントリーされ、最終審査では一次審査(書類)を通過した10のプランの代表者がプレゼンテーションを行いました。会場には一般観覧者を含む約110人が集まり、光や映像を使った演出の中、熱い発表に聞き入りました。

審査の結果、最優秀賞には本学人文学部3年・正田真悟さんの「ドローンを用いた動画撮影による地域活性化事業」が選ばれ、茨城大学長賞として現金30万円が手渡されました。その他、優秀賞を獲得した3件のプランには後援団体からそれぞれ茨城新聞社賞、筑波銀行賞、常陽銀行賞が授与された他、会場ではクリッカーを使って参加者の投票による観客賞も選出しました。審査委員長を務めた本学の影山俊男理事は、「学生らしいアイ



ディアで、『社会をこうするんだ』という熱意を感じ、嬉しかった」と述べた上で、『社会の中で共感性のあるもの』というのが、ひとつのキーワードになる」と講評を述べました。



研究



大学発ベンチャー創出へ
めぶきFGから寄付金

茨城大・宇都宮大・筑波大は11月7日、めぶきフィナンシャルグループ(FG)傘下の常陽銀行及び足利銀行と、より強固な学金連携による地方創生・地域活性化を目指して、連携協力協定を締結しました。めぶきFGは、茨城県を拠点とする常陽銀行と栃木県を拠点とする足利銀行の経営統合により昨年10月に発足しました。従来は茨城大と常陽銀行とで行っ

ていた「ひざづめミーティング」を今年度は宇都宮大・足利銀行との合同により展開するなど、統合のメリットを活かした連携が進んでいます。こうした経緯から、両県にある3大学と両行との間での連携協力協定が締結されることになりました。また、協定締結にあわせて、めぶきFGによる大学発ベンチャー支援も発表されました。これは大学の研究成果をベースとする事業が民間投資を得にくい状況に鑑み、同FGが資金の提供、事業化のコーディネート、大企業等とのマッチングといった支援を行うもの。今回は支援対象として、本学からは工学部・鈴木智也教授の「人工知能の集合を活用した投資銘柄の選択」が選出され、50万円の寄附金が贈呈されました。

地域



「五浦コーヒー」いばらきデザインセレクションで知事選定

本学がサザコーヒーと企画開発した「五浦コーヒー」が、「いばらきデザインセレクション2017」で最高選定の「知事選定」に選ばれました。また、工学部の複数の教員らが関わった日立市・久慈浜海水浴場での取り組み「アートビーチくじはま」も同じく知事選定を受賞し、本学にとってはダブルの栄冠獲得となりました。いばらきデザインセレクション

は、茨城県の地域や産業を元気にする優れたデザインの選定を通じて、茨城県の地域イメージを高め、産業振興につなげるために開催されているデザインコンテストです。五浦コーヒーは、岡倉天心ゆかりの北茨城・五浦地域のブランディング事業の一環として「茨城大学国際岡倉天心シンポジウム2016」にあわせて開発したもので、学生たちによる「五浦発信プロジェクト」では、五浦コーヒーを活用した地域プロモーションにも取り組んでいます。また、「アートビーチくじはま」は、工学部の一ノ瀬彩研究室が手がけた木組みの休憩所を拠点にアートワークショップを行ったほか、矢内浩文准教授や住谷秀保助教も展示企画に関わりました。

地域

「茨城大学 1day キャンパス in 守谷」開催 農&食の地域のチャレンジを語りあう

11月4日、守谷市中央公民館で「茨城大学 1day キャンパス in 守谷」(共催: 国立大学協会)を開催し、県内外から約100人が来場しました。「1day キャンパス」は、本学がさまざまな地域や学校へ出向いて教育・研究の取り組みを発信するもので、今年度よりスタートしました。農業を資源とした地域づくりを進める守谷市と本学農学部との間で連携協定を締結したことから、第一弾の開催を守谷市とし、「農&食のグローバル化への地域のチャレンジ」

をテーマに掲げました。ステージイベントは、農業系サークル「楽農人」の代表を務める中山大暉さんの司会で進行。グローバル規模で食品材料の開発・販売を展開している不二製油グループ本社株式会社社長の清水洋史氏を迎えたスペシャル講義では、大豆からチーズなどの新たな加工食品を作る同社の技術や、国内外の市場での販売戦略を事例に、社会の持続可能性に対する食ビジネスのあり方が紹介されました。その他、リレーミニ講義やパネ



ルディスカッションを通じて、茨城県内の農業の6次産業化をめぐる現状や課題などについて議論を交わしました。加えて会場では、「イバダイ体験コーナー」や地元の農産品の販売ブースも展開。参加者からは「守谷で茨大に触れられる機会がもっとあれば」などの感想が寄せられました。



卒業生

ホームカミングデー 2017 卒業生ら 185人が憩う

茨城大学ホームカミングデー2017が、茨苑祭初日でもある11月11日に水戸キャンパスで開催されました。本学卒業生たちが集まり、旧交をあたためるとともに、本学の学生や教職員と触れ合いました。全学のホームカミングデーは2015年に始まり今年が3回目の開催。今年は名誉教授の先生たちも招待し、昨年より多い

185人が参加しました。司会進行はNHK水戸局でキャスターをしている教育学部卒業の金田優香さんが務め、ステージでは三村学長が大学改革の現状を説明したほか、サークルや地域活動などで活躍している学生へのインタビューなどを通じて、茨城大学の今の姿を参加者に紹介しました。

また、アトラクションとして、本学で学生課長を務めた経歴をもつ金野龍一さんが、第20代名人永井兵助として、無形文化財の筑波山ガマの油売り口上を披露し、会場を沸かせました。最後は混声合唱団の学生・卒業生のリードにより、会場の全員で校歌を合唱。記念撮影をして幕を閉じました。



ダイバーシティ

前国連女性差別撤廃委員長 林氏招き講演 水戸市と連携

11月29日、前国連女性差別撤廃委員会委員長で弁護士の林陽子氏を講師に迎え、講演会「国連から見る日本の男女平等の現状」を、水戸市と本学の連携により開催しました。会場の水戸キャンパスには195人が参加し、講演に耳を傾けました。林氏は水戸市出身。日本人として初めて国連の女性差別撤廃委員会委員長を務め、現在も同委員として活躍しています。

林氏は、憲法や法律で男女差別を禁止していることと社会の実情との間のギャップに触れた上で、同委員会の活動について「平等化がなぜ進まないのか、その原因を探り支援することが目的」と説明し、介護、育児、家事といったアンペイド・ワーク(無償の家事労働)の多くが女性に負わされている日本の現状などを指摘しました。

林氏の講演後、コメンテーターを務めた人文社会科学部の鈴木俊晴准教授(労働法学)は、「法が整備されれば社会が変わる、というわけではない。私たちひとりひとりの意識改革が欠かせない」と述べました。質疑応答でも会場から多くの質問や意見が示され、自治体と大学が協働して市民の声を聞く貴重な機会となりました。



教育

防火防災訓練に学生多数 防災備蓄の啓発も

11月15日、水戸キャンパスで防火防災訓練が行われました。例年は教職員を中心とした訓練でしたが、今年は昼休み中の実施や事前の周知の強化といった取り組みにより約200人の学生たちも参加しました。総合訓練では、学生たちもそれぞれの教室等から一斉避難場所であるグラウンドへ駆けつけ、緊張感をもって訓練に取り組みました。

なお、本学は地域の広域避難場所に指定されていることから、非常時の帰宅困難者のための飲料水や食糧のほか、簡易トイレや簡易寝袋等を備蓄しています。今回の訓練の終了後、そうした取り組みの周知と日常的な災害対策への啓発を兼ねて、使用期限が迫っている保存食品などの防災備蓄品を参加した学生たちに配付しました。



第68回茨苑祭
テーマは「祭色兼美」

おもなメディア掲載

- 11/9 茨城放送『ほっとボイス』「茨城大学 1day キャンパス in 守谷」農・久留主学部長がスタジオ出演
- 11/2 茨城新聞「移住・定住促進へ提案 5市町村が成果発表」人文科学研究科社会人コースに通う自治体職員がフィールドワークの成果を発表
- 11/7 茨城新聞「笠間の菊まつり1万鉢咲き誇る」工・景観・都市デザイン研究室の学生らが演出
- 11/8 毎日新聞「伝統楽器 古箏を演奏 龍ヶ崎」農学部の留学生・戴韞千さんによる演奏会
- 11/8 日本経済新聞「茨城・栃木3大学に寄付金」めぶきFG
- 11/9 THE PAGE (WEB)「2020年に義務化迫る“小学校プログラミング教育”、教育現場が抱える課題」附属小の研究授業の取材記事、教・小林紀准教授の談話
- 11/9 茨城新聞「いばらきデザインセレクション」五浦コヒーを媒介とした岡倉天心・五浦発信が受賞
- 11/13 NHK(水戸)『いば6』「学長に三村氏再任へ」
- 11/15 読売新聞「チバニアン命名に「ほっとしている」研究チーム会見」チーム代表の岡田誠教授
- 11/15 日本テレビZIP!「<アレナニ?>「チバニアン」ってナニ?」
- 11/16 読売新聞「市議 政治家費全て人件費に」人社・佐川泰弘教授
- 11/18 読売新聞「災害時ドローン空撮茨城大サークル協定 石岡市と」茨城大学航空技術研究会
- 11/19 茨城新聞「学生「たまり場」開業」本学学生たちが水戸でカフェ
- 11/22 茨城新聞「お茶風味の菓子いかが 五浦美術館 茨城大生が考案」学生たちがフィナンシェを開発
- 11/22 NHK『いば6』「茨城調査隊「なぜ茨城県は魅力度ランキング最下位?」」人社・田中耕市准教授
- 11/24 茨城新聞「ビジネス案学生コンテスト」ドローンで観光PR動画」最優秀賞に正田真悟さん
- 11/24 月刊ぶらざ「大学の教育改革で地域や、世界で活躍する人材を育成する」学長と学生2人が鼎談
- 11/28 茨城新聞「イラン出身講師に文化を学ぶ」特別支援学校中学位
- 11/28 NHK(水戸)『いば6』「子どもたちが作ったユニークな地図作品展」教・村山朝子教授コメント
- 11/29 読売新聞「中世の城 謎解き明かす」読売新聞水戸支局との連携による図書館土曜アカデミー告知